

# 鴨部川流域での調査

徳島文理大学 谷 剛志  
辻 敦矢  
林 龍一  
横田 圭祐

日時 2015年10月9日 13:00~17:00

場所 鴨部川流域の4地域

目的 流域の環境保全活動団体の方々が活動されている地域を訪れ、それぞれの地域の現状や魅力、課題等を共有する。また、現状を把握するため、鴨部川の水質検査(CODと透視度)、ごみの観察等を行う。

## 1 白方（鴨部川河口付近西側海岸）

水質 COD 4mg/L  
透視度 100cm以上

鴨庄漁協 松中さんから説明  
徳島文理大学 水野先生から説明

### 聞いたこと、気づいたこと

- ・10年前よりも浜辺や干潟でアサリの獲れる量が減ってしまったそうだ。
- ・浜辺の貝殻は、小さいものが多かった。(貝が大きくなれないという説明と一致)
- ・落ちているごみは、ガラスやビンの破片が多かった。
- ・海岸側よりも陸側の方にごみが多かった。
- ・鴨部川河口に比べると浜辺の方がごみが少なかった。

### 落ちていたごみの種類

- ・木材
- ・ペットボトル
- ・プラスチック片
- ・ビン、ガラス
- ・ビニール系



## 2 造田（片山橋）

水質 COD 8mg/L  
透視度 47cm

鴨部川アジサイ夢ロード造田の会 松原さんから説明



聞いたこと、気づいたこと

- ・造田小学校の子ども達が造田の顔として鴨部川の景観をよくしようとし、旧長尾町役場の方々などとの協力で河川沿いにアジサイを植えたことが造田の会の始まりであるらしい。
- ・ボランティアの方々が定期的に清掃などの活動をしているそうだ。
- ・河岸を石で整備しているため、雑草が少なく憩いの場所としても使いやすい。
- ・想像していたよりも水質が良くなかった。
- ・水は濁っていた。



落ちていたごみの種類

- ・空き缶
- ・ビン

## 3 昭和（新井戸川橋）

水質 COD 7mg/L  
透視度 77cm

昭和を美しくする会 森川さんから説明



聞いたこと、気づいたこと

- ・周辺の各自治会と一緒に河川沿いの清掃活動をしていて、草が多いため、川の中までは手が回っていない状況であるらしい。
- ・3月と7月には子ども会と連携して活動しているそうだ。
- ・3月に花が咲くレンギョウという植物を河川敷などに植えているそうだ。

落ちていたごみの種類

- ・道を歩いている人が捨てたと思われるごみがあった。
- ・雑草が多くよくわからなかった。

#### 4 前山（来栖溪谷）

水質 COD 4mg/L  
透視度 100cm以上

前山をよくする会 蓮井さんから説明



聞いたこと、気づいたこと

- ・周辺の自治会で協力して「クリーン作戦」という清掃活動を年3回実施し、県道志度山川線沿いをきれいにしているようだ。
- ・来栖溪谷の近くの県道志度山川線沿いに夜間ごみを捨てる人がいるらしい。
- ・川が澄んでいて、川底が見えるほどきれいだった。
- ・川の付近にはごみがほとんど落ちていなかった。



まとめ

- ・工場や家庭からの排水は昔に比べてきれいになったが、山や里などの自然からの栄養も減っているらしい。
- ・海底ごみは、3 / 4程度がペットボトルなどのプラスチック系のごみであるようだ。
- ・ダムの上流域ではコケや腐葉土が多く植物の生育が良かった。今年は雨が多く、川や海の生態系に対する好影響があったものと思われる。ダムの下流側には栄養が届き難いのではと感じた。
- ・川の栄養については、農業用水の確保や放水により増減すると聞いた。農業用水についても、栄養、あるいは農薬の面から検討する必要があると感じた。
- ・漁業については、川鵜や海鵜による被害が大きくなっていく現状を初めて知った。
- ・各地域で清掃活動などをされている団体の方と交流し、刺激になった。しかし、流域全てが繋がったわけではない。川全体で見ると地域地域が繋がっていない部分もある。現在活動が行われていない流域についても何らかの活動をする方がよいと感じた。
- ・下流側では、ごみやにおいの原因は上流側から来るため、上流で川を汚していると感じる部分もあるようだったが、上流の活動を見たりお互いの地域が交流することによって、そういう感覚はなくなっていくようにも感じた。

